

## 令和4年度 山形県地域づくり実践交流集会 実施報告（HP版）

- ◆日時 : 11月6日(日) 13:30~16:30
- ◆会場 : 遊学館第1研修室
- ◆テーマ : 地域づくりの担い手育成～若者は地域をどのように捉えたのか～
- ◆参加者 : 43名
- ◆内容 : 山形県では少子高齢化や若者の都市部への流出が進む中、地域社会を運営していくための担い手育成がますます重要となっています。本集会では、山形県の青年団の地域づくりや、現在の若者の取組みを通して、今後の地域づくりの担い手育成について考えました。

### プログラム

13:30~ 開会・オリエンテーション

13:40~ 【基調講演】オンライン講演「山形県の青年団と担い手育成」

講師: 矢口悦子 氏(東洋大学 学長)

15:05~ 【シンポジウム】

・Team道草(山形大学) 石橋飛鳥 氏、山科沙希 氏

・大石田にぎりばと部 高橋陽介 氏

コメンテーター: 下平裕之 氏(山形大学教授)

16:30 閉会

コーディネーター: 一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬隆人氏

### ◆当日の様子

【基調講演】オンライン講演「山形県の青年団と担い手育成」  
講師: 矢口悦子 氏(東洋大学 学長)

矢口氏より、山形の青年団に興味を持ち研究した経緯や戦後の青年教育において山形県の青年団が果たしや役割をお話いただきました。ポイントとして、現在の青年海外協力隊の前段階として山形県産業開発青年隊運動があったこと、公明選挙運動、そして「共同学習」の手法が山形県連合青年団で提唱されたことなど、戦後の青年教育において、山形県は全国的な運動のリーダーとして存在していたことを学びました。また、“Society5.0”を目指す社会の中でこれからの地域づくりに必要なことは、Society1.0~5.0まで重層的で、多様な文化をもつ人々が互いを理解しつつ認め合いながら、学び合うことが大切で、そのためには青年たちの居場所づくり、つまりは地域づくりの拠点が必要であるとお話いただきました。



基調講演 矢口 氏



コーディネーターの廣瀬 氏

<sup>1</sup> Society5.0とは、仮想空間と現実空間を融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会を目指す取組みのこと

## 【シンポジウム】

はじめにコメンテーターの下平氏との対話形式で、山形大学 Team 道草の石橋氏、山科氏より発表いただきました。最上地域（金山町、新庄市）で様々なイベント等を年間30～40回開催。学生の「やってみたい」と、地域の「やってほしい」をビジョンに活動しており、自分に何ができるかというところを常に考えながら活動しているとお話いただきました。

次に大石田にぎりばっと部の高橋氏より大石田の郷土料理「にぎりばっと」で、そばの里大石田を新発見・再発見をコンセプトに活動している内容についてお話いただきました。そばの栽培イベントでは世代間交流や文化伝承、高校生や福祉ボランティアとの連携も行っており、現在は次世代育成にも取り組んでいることをお話いただきました。

総括ではコメンテーターの下平氏より、どちらの団体も「おもしろさ」がキーワードになっている。活動の継続＝地域づくりは、本人たちが活動をおもしろい、楽しいと思うことが大切であり、これからの地域づくりの一つのポイントになりますとコメントをいただきました。

### 参加者 Voice

- ・戦後山形県における青年教育のあゆみについてのご講演は大きな示唆をいただきました。
- ・親たちが生きた時代の背景を知ることができ、家族やふるさとに対する敬愛の念が強まった。こうしたセミナーは初めて受講したので見識が深まった。共感することも多かった。自信がもてた。
- ・山形県の青年団について新知見が得られた。誇れるものがあることがわかった。現代社会の課題解決の道標となるものがあることを理解した。
- ・地域づくりという意識より“自分たちが楽しむ”ことが大事だということを改めて実感できた。
- ・なつかしかった。
- ・若者が地域づくりに参画する事業を行う上で大きなヒントをもらいました。
- ・興味があった大石田にぎりばっと部と Team 道草の取組みを知る事ができた。
- ・サークルの始め方を見つけようと今回申し込みました。「始めるよりも続ける事が難しい」と聞き納得。始め方もヒントを得ることが出来ました。



山科 氏、 石橋 氏



高橋 氏



下平 氏



展示(夢プロジェクト「竹あかり×ゆき×祈り」実行委員会)



フロアとの質疑応答